

第57回の概要

さて今回も九州から竹田、西村先生の緊急参戦です。やはり名物の証の解説をしていただかないと広畑漢方ではありません・・・

今回のテーマは気剤の使い分け



キーワードは胸のつかえ。

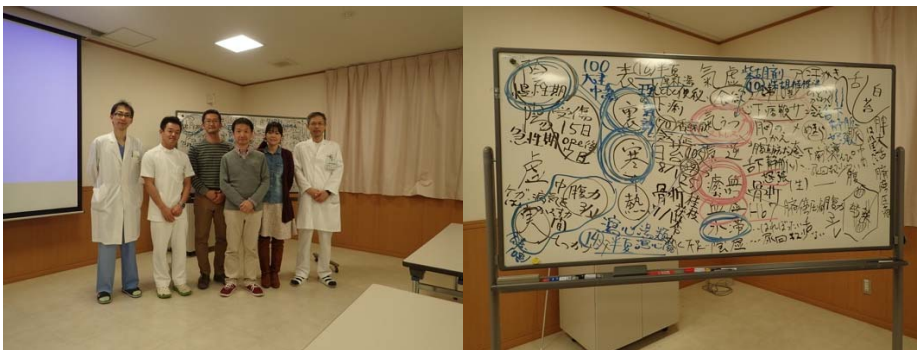


心下痞硬を考えます。「心下」とはみぞおちの下あたり、「痞」とはつかえる、ムカムカするなど、「硬」はそこが硬くなっていること。すなわちみぞおちの下がつかえて硬くなっている状態。押さえると抵抗とともに嫌な顔をします。痛いという人もいます。

所長に協力していただきます。申し合わせたわけではないのですが、胸脇苦満はないのに、心下痞硬がありました。



となると瀉心湯類か人参を含む処方



鑑別として挙げられたのは、半夏厚朴湯

咽頭部のつかえ感とも取れるので、梅の種を飲み込んで取れない感じ

「梅核気」：その場合は半夏厚朴湯になります。

本症例では心下痞硬があったので半夏瀉心湯としました。

黄連、黄芩の清熱剤と半夏、乾姜と温裏の組み合わせです。

またその前に通導散、治打撲一方で下痢になっており、裏寒の病態になっていたようです。そこで大建中湯を追加して裏温を強化しました。

最後にメンバーで記念撮影です。